林業マン INTERVIEW

ぬながわ森林組合 西 学

Nishi Manabu

1970年、名古屋市出身
糸魚川市在住（48歳）
林業経験2年半

45歳を過ぎてから新しいことに挑戦する楽しさ。毎日が新鮮です

――以前はどんな仕事をしていましたか。

外資系の車の塗料メーカーの営業で、新潟に来るまでの4年間は東京勤務でした。仕事で環境に良い塗料を扱ったことをきっかけに環境保全に興味を持ち、転職を考えるようになりました。スノースクート（雪上自転車）が趣味で、10数年前から冬は「シャルマン火打スキー場」に毎週通っていたので、もっと趣味も楽しみたいと思って能生（糸魚川市）に移住しました。

――林業を仕事に選んだ理由は。

自然の中でできる仕事として興味があったので、能生に移住した3年前に妻と一緒に「林業就業支援講習（4日間コース）」を受講したんです。実際に枝打ちや玉切りを体験したことで「自分でもやれるかも…」という気持ちが強くなりました。

――実際に働いてみての感想は。

45歳だったし、体力的に厳しいことは覚悟していましたが想像よりも何倍もキツかったです（笑）。右も左も分からない中「皆さんの足を引っ張らないように！」をテーマに、とにかく必死でした。当時に比べると今は仕事に取り掛かる前に全体をイメージできるようになったので、少しは成長したかなと思います。この歳になって新しいことに挑戦し、成長を感じられる喜びがあります。毎日が新鮮ですよね。

――林業のどんなところが魅力ですか。

チームワークがとても大事で、コミュニケーションを図りながら全員が協力して仕事を完成させていくやり方がすごく良いと思っています。常に危険を伴う現場ならではの緊張感も心地良く、それが大きな達成感につながっていると感じます。

――今後の目標は。

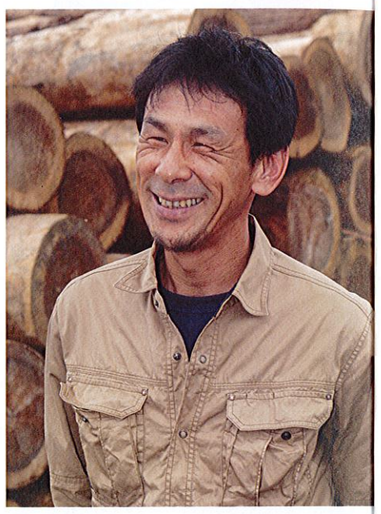
まだまだ知識も経験も足りませんが、現場で一通りいろいろなことを学んで、将来的には森林施業プランナーの資格を取得して山主さんに山を良い状態にする提案ができるといいなと思っています。林業は勉強することがたくさんあって面白い仕事だと思います。

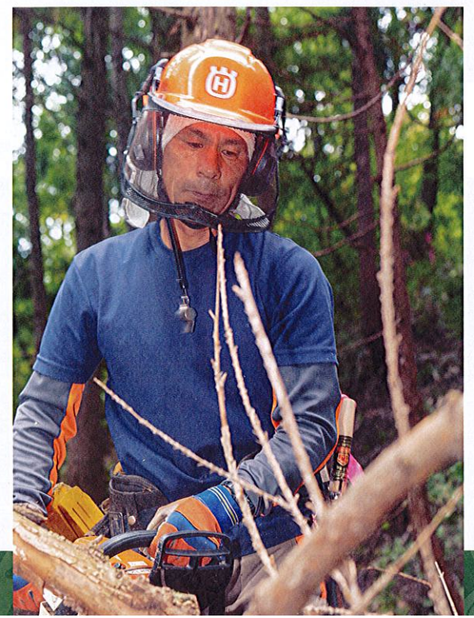
――転職してよかったことは。

以前は帰宅が遅く不規則な生活だったのですが、自然の中で汗をかく仕事は心にも体にも良いですね。お昼に食べる弁当が本当においしくて。こんなにご飯がおいしいと感じるのは初めてです。妻が仕事に対して理解・協力してくれるのもうれしいですね。仕事から帰ると近所の温泉に行き、晩酌を楽しむ毎日です。

――若者へアドバイスを。

僕にはない体力と可能性があってうらやましい！ 若いときは失敗を恥ずかしいと思ってしまうけど、失敗も成功も財産。恐れずにチャレンジして欲しいと思います。





2016年6月に入社。「山の歩き方から、道具の扱い方、作業の進め方など、少しずつですが自分の成長を感じられるのはうれしいですね。これからもっと技術を確かなものにしていきたいです」

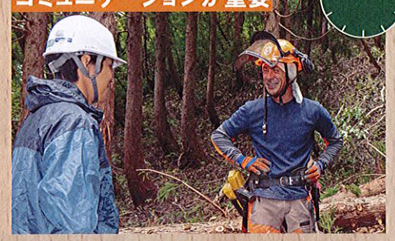
Working Time 西さんの1日

6:00	起床
7:30	出社
8:00	朝礼後、現場へ移動して伐倒作業
12:00	昼休み
13:00	伐倒作業
17:00	会社へ戻る
17:30	退社
22:00	就寝

仕事内容や時間配分をイメージして現場へ 8:00

朝礼後、ボードに行先を書き、現場へ移動。「以前は目の前の仕事をがむしゃらにやっていた感じでしたが仕事に慣れてきて、その日の作業内容をイメージできるようになりました」

危険な現場だからこそコミュニケーションが重要 13:00



指導員の恩田さんには道具の使い方など細かい点のアドバイスをもらっています。「先輩といっても僕より若い人も多いですが（笑）、皆さん良くしてくださって感謝しています」

Private Time 西さんのちょっとプライベートコーナー

冬はスノースクートが楽しい！

温泉で疲れを癒し二人でゆったり晩酌します